

No. 4	議席番号	氏 名	質問事項・要旨及び答弁者
	4	竹 田 努	
<p>1. 持続可能なまちづくりについて</p> <p>鈴木町長就任来、コロナと向き合い、子育て支援、移住定住施策、一次産業支援等々に取り組んできたところであります。</p> <p>この5カ年で、人口487人減少、世帯184世帯減少、人口3,500人、高齢化率52%、毎年95名程度減少しており、持続可能なまちづくりを進める中で少し心配しております。</p> <p>常日頃から町の課題は、人口減少と財政状況と認識しておりますが、最大の収入源である地方交付税については横ばいで推移している状況で、過日開催された総務・経済常任委員会での財政推計では、当面は心配はないとの報告があり安堵したところであります。</p> <p>今後は、旧中学校、旧老健施設の解体等で億単位の財源が必要であり、そのため3,500人の町としてのスリム化も必要ではないでしょうか。新年度予算等からも子育て支援、移住定住施策に重点をおいているように見受けられ、大変重要な施策であり否定するものではありませんが、高齢化率が52%の町であることから、高齢者施策の充実に目を向けていただきたいと思っています。新たな施策については、予算等審査特別委員会で議論を交わしたいと考えてはいますが、次の3点について町長の考えをお伺いします。</p> <p>(1) 第7次振興計画検証委員会が8名体制でスタート。第1回目の検証委員会が年度末に開催され「将来のまちづくりを担う人材を育成する」とのことから、委員構成は60歳以下で組織するようである。8名のうち4名が中学生の構成であり、人選にあたり高校生や大学生、高齢者の参画の検討がなかったのか。</p> <p>(2) 高齢者施策を実施するうえで、高齢者の経験、知識、技能を生かし地域社会に貢献している高齢者事業団もまちづくりには欠かせないものです。しかし、近年は人員の確保も難しい状況であるため、雇用される高齢者の賃金も含めた処遇改善が必要ではないかと考えます。高齢者の雇用の確保が重要であるとの認識から、事業団への支援策の拡充を検討していただきたい。</p> <p>(3) 持続可能なまちづくりには、これからは誰もが参加できる形でのまちづくりが不可欠であると考えます。そのためにはジェンダー平等実現も重要であり、当初予算の資料にもSDGs17が掲げられているものの紐づけされている事業は記載されておられません。そこで当町におけるジェンダー平等実現のための取り組みについて町長の見解を伺います。</p>			町 長

## 2. 持続可能な福祉について

国保病院、特養施設は、町の大動脈であり、公立病院の経営強化プランに基づき「医師、看護師等の確保と働き方改革」、「新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」を掲げ、24時間医療体制の維持、医療と質とサービスの向上に努める。特養事業については、関係機関と連携強化、利用者の確保、介護人材の確保など、安定した介護サービス提供を目指すと執行方針に記載されております。

過日行われた総務・経済常任委員会において上半期の収支状況の報告がありましたが、両施設とも経営に関して努力していることは評価に値するが、公営企業会計の精神から、何らかの手を打たなければと考えます。

令和7年度予算に関しても実質収支は赤字経営であることから、抜本的な改善が必要と思いますが、設置者として町長の考えを伺います。

町長  
管理者